



2023年12月12日

令和5（2023）年度第4回定例記者会見開催のお知らせ

日時：2023年12月14日（木）10:30～11:45
場所：豊橋技術科学大学 事務局3階大会議室
YouTube：<https://youtube.com/live/0QaLRpz5fr0>

※同日10:00～10:30において、東三河県庁との協定締結式を執り行います。
多くのご参加をお待ちしております。

<記者会見項目>

- ①地図アプリ「おにどこ」利用者の都市イメージ
～デジタルマップ・ストリートビューの利用が生む都市イメージの解明に向けて～
【建築・都市システム学系 准教授 水谷 晃啓】（別紙1）

- ②ダイバーシティ推進センターの活動報告（別紙2）
【ダイバーシティ推進センター長 中野 裕美／ダイバーシティ活動支援学生 金子 光瑠】

- ③職場を明るくする対話のできる移動型サービスロボットの開発
～学長秘書サポートロボットのプロトタイプを開発し実証を開始しました～
【情報・知能工学系 教授 三浦 純】（別紙3）
※会見後、事務局2階秘書室前にてデモンストレーションを行います。

- ④令和5年度 文部科学大臣賞を総合教育院 教授 中森康之の共編著『蝶夢全集 続』
が受賞しました ～文学史を書き換える根源となる研究～
【総合教育院 教授 中森 康之】（別紙4）

- ⑤令和5年度「STI for SDGs」アワード 科学技術振興機構理事長賞を受賞
～小規模廉価型メタン発酵システムによる「誰ひとり取り残さない」社会の実現～
【応用化学・生命工学専攻 博士前期課程2年 宮里 真珠】（別紙5）

<本件連絡先>

総務課広報係 岡崎・高橋
TEL:0532-44-6506 FAX:0532-44-6509



2023年12月12日

地図アプリ「おにどこ」利用者の都市イメージ

～デジタルマップ・ストリートビューの利用が生む都市イメージの解明に向けて～

<概要>

デジタルマップやストリートビューを搭載した地図アプリを通して、あらゆる土地の情報を時間や距離の制約を受けず取得できるようになった現在、人々が都市に抱くイメージやそのプロセスには変化が生じていると考えられます。本研究では、地図アプリの利用が生み出す都市イメージをスケッチマップ調査から分析し、その特徴を明らかにすることで、地図アプリをいかに都市と人々をつなぐツールとして有効に活用していくことができるか考察を行いました。

<詳細>

地域に対するイメージや景観特性について、これまで様々な調査や研究が行われていますが、それらの多くは都市空間における実体験を通して記憶された経験に基づいた「イメージ」が対象とされてきました。情報化が進み、デジタルマップやストリートビューを搭載した地図アプリの利用頻度が増した現在、実体験のみならず地図アプリの利用を通して記憶された経験が、人々の都市に対する「イメージ」の形成に影響を与えていると考えられます。豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 水谷晃啓准教授らの研究チームは、豊橋市中心部に位置する安久美神戸神明社周辺を対象地とし、デジタルマップとストリートビューが併用可能な地図アプリ「おにどこ」を用いた実験を行いました。実験では、周辺地域に対して「土地勘を有する」グループ、「土地勘を有しない」グループを対象として、スケッチマップとよばれる被験者が描画した手描き地図に対する分析を行いました。「おにどこ」使用前のスケッチマップと使用後のスケッチマップに描かれた要素（①エレメント種類、②エレメント数、③パスの総距離、④描画面積の集計及びイメージの重心とその方角）の変化が、被験者の「おにどこ」の利用方法といかに関係しているか調査することで、「おにどこ」の利用が生み出す都市イメージの特徴を明らかにしました。

実験・分析結果から「おにどこ」の利用が生み出す都市イメージの特徴として、(1)「土地勘を有する」グループ、「土地勘を有しない」グループともに「おにどこ」使用によって都市に対する認知度があがることが明らかとなりました。特に、「土地勘を有しない」グループに対して、その効果が高くみられる傾向があることが示されました。さらに、「おにどこ」の使用によって、(2)イメージマップの中心となる「安久美神戸神明社」の位置を示すイメージ重心が神社中心へと補正されることが明らかになりました。このイメージ重心の補正は(3)「土地勘を有する」グループ、「土地勘を有しない」グループともに被験者の居住地から対象地域へ流入する方向と概ね一致する傾向があることがわかりました。加えて、(4)「おにどこ」の利用合計時間に占めるストリートビューの利用時間が長いユーザーは線的に広がった形状のスケッチマップを、デジタルマップの利用時間の長いユーザーは面的に広がったスケッチマップを描く傾向が確認でき、使用した機能から得られる情報が都市イメージの形成に影響していることがわかりました。

<今後の展望>

本研究を通して、「おにどこ」のような地図アプリの利用が、都市の空間情報の獲得を主とした中心性のあるイメージ形成に有効であること、その利用方法や利用時間に影響を受けることがわかりました。特に土地勘を有さないユーザーに対しての効果が大きく、その地を訪れたことがない人々に対しても都市イメージの形成を促すことができるという点から、「おにどこ」のような地図アプリをその地域の魅力を発信するツールとして活用していくことができると考えられます。時間や距離の制約を超えた仮想的な都市空間体験を可能とする地図アプリが、多くの人々と都市とを円滑に繋ぐツールとして活用されることが期待されます。こうしたデジタル技術によって変化した / するだろう人々の都市イメージ形成について、今後も注目していきたいと思っています。



図1. 「おにどこ」に搭載したデジタルマップとストリートビュー



図2. 調査対象範囲とスケッチマップ描画に対する分析内容

<論文情報>

水谷晃啓, 徳原峻人: 地図アプリ「おにどこ」利用者の都市イメージに関する研究-「おにどこ」使用前後のスケッチマップの比較を通して-, 日本建築学会技術報告集, 29 巻 73 号 p. 1665-1670, 2023 年 DOI : <https://doi.org/10.3130/aijt.29.1665>



本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋

TEL : 0532-44-6506 FAX : 0532-44-6509



2023年12月12日

ダイバーシティ推進センターの活動報告

(1) PRIDE 指標 2023 (報告)

11月7日に一般社団法人 work with Pride が策定した LGBTQ に関する取組評価指標「PRIDE 指標 2023」において「シルバー」を取得しました。

(2) LGBTQ+環境整備：防犯ブザー等の設置 (報告)

学生からの声を反映してキャンパス内の環境整備を行いました。

- ・ A棟トイレに防犯ブザー設置
- ・ 更衣室の代わりとして、みんなのトイレにフィッシングボード設置

(3) 女性のための管理職セミナー (報告)

名古屋大学副総長 東村博子教授を講師に迎え、大学運営に関わってこられた先生の経験から、次世代を担う女性に向けた応援メッセージまで、幅広くお話しいただきました。また、講演会の後には、懇談会の時間を設け、活発な意見交換が行われました。

(4) ダイバーシティ活動支援学生との活動 (報告)

「多様性×理解=大学の未来」を大きなテーマとして、LGBTQ+のこと、大学院進学率のことについて考える座談会を、ダイバーシティ活動支援学生メンバーが主体となり開催しました。

第1回「みんな違ってみんないい」

第2回「最近大学院生増えたよね～... 本当に??」

(4) について、ダイバーシティ活動支援学生※から報告します。

※ダイバーシティ活動支援学生とは

ダイバーシティと工学の視点をもった新しい知や価値の創出を先導し得る先駆的な技術者・研究者の人材育成のため「ダイバーシティ活動支援学生」を募集し、採択された学生です。

担当者：ダイバーシティ推進センター事務局 森田・松原・梅藤 TEL:0532-44-6502

【ダイバーシティ推進センター URL】 <https://equal.tut.ac.jp/>

広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋 TEL:0532-44-6506



2023年12月12日

職場を明るくする対話のできる移動型サービスロボットの開発
～学長秘書サポートロボットのプロトタイプを開発し実証を開始しました～

<概要>

豊橋技術科学大学では、追手門学院大学、新東工業株式会社とともに、人と対話し、移動しながら様々なサービスを提供するロボットの研究開発を進めており、最初の具体的なターゲットとして、学長秘書サポートロボットのプロトタイプを開発し、実証を開始しました。今回は、研究開発の構想とプロトタイプの紹介・実演を行います。

<詳細>

豊橋技術科学大学では、2010年度に設立された人間・ロボット共生リサーチセンターを中心に、人と共生し、人を助けるロボットの研究開発を進めてきました。また、知の拠点あいち重点研究プロジェクト第II期（2016～2018年度）、第III期（2019～2021年度）の研究プロジェクトでは、豊橋技術科学大学、追手門学院大学、新東工業株式会社を中心に、見守りロボット「くるみ」の開発を行ってきました。

近年、人手不足を背景に、日々の業務を支援するサービスロボットへの期待も高まっています。そこで、人と対話することが可能で、移動しながら様々なサービスやサポートを行うロボットの実現を目指し、研究開発を進めてきました。音声対話機能を組み込んだ「くるみ」に、人物認識・自律移動機能を実装し、移動型サービスロボットのプロトタイプを構築しました。現在、第一弾のターゲットとして、学長秘書サポートロボットを選んでプロトタイプを開発し、実証を開始しています。秘書からの指示を理解し、来客を学長室に案内したり、お茶を運んだり、お帰りの時間を知らせに行ったりと、通常秘書が動きながら行う業務をロボットで代替し、秘書とロボットが協力して業務にあたります。これまでに、来客を学長室に案内する機能を実現しましたので、その実演をご覧ください。今後、その他の機能を実現し、また他の学内の業務への応用を検討していきます。



「くるみ」による案内の様子

本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋

TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509



2023年12月12日

令和5年度 文部科学大臣賞を
総合教育院 教授 中森康之の共編著『蝶夢全集 続』が受賞しました
～文学史を書き換える根源となる研究～

<概要>

総合教育院 教授 中森康之の共編著『蝶夢全集 続』が令和5年度 文部科学大臣賞を受賞しました。本書では、豊橋市立図書館にしかない資料（書簡など）も使用しています。本書を基にした研究が進めば、文学史が変わります。

この賞は、令和4年度に刊行された俳文学（連歌・俳諧・俳句など）関係の研究書のうち、最優秀研究著書に贈られるものです。昭和29年（1954年）から現在まで続いている伝統ある賞です。

主 催 者：伊賀市及び芭蕉翁顕彰会
受 賞 名：令和5年度 文部科学大臣賞
書 名：『蝶夢全集 続』（2022年11月、和泉書院）
共編著者：田中道雄、田坂英俊、玉城司、中森康之、伊藤善隆

<詳細>

- ・『蝶夢全集』（田中道雄・田坂英俊・中森康之共編著、2013年5月、和泉書院）と合わせて評価されました。
- ・正編、続編合わせて、蝶夢に関する（知り得る限りの）全資料を収録しています。
- ・選考委員会において、「続編に収める477通の書簡は圧巻」、「芭蕉が芭蕉として今の時代に存在価値を持つ、その根源を見つめ直す画期的なもので、俳諧史研究における意義は大きい」（審査概要）と評価されました。
- ・蝶夢とは
 - 江戸時代中頃、蕪村と同じ時代の僧侶で俳人。
 - 当時は蕪村と並ぶ偉大な存在だったのに、現在では忘れられた人。
 - 日本初の芭蕉全集を出版した人。
 - 「旅の詩人芭蕉」、「わび・さびの詩人」というイメージを作った人。
 - 流派を越えた俳人の全国的ネットワークを形成し、「芭蕉へ帰れ」という運動（「蕉風復興運動」）をリードした人。

<今後の展望>

- ・学術的には、本書を基に、文学史を書き換える研究を進めます。
- ・一般の方に向けて、蝶夢の素晴らしさ、偉大さを知ってもらう活動（本の執筆など）を行いたいと考えています。



本件に関する連絡先
広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋
TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509



2023年12月12日

令和5年度「STI for SDGs」アワード 科学技術振興機構理事長賞を受賞

～小規模廉価型メタン発酵システムによる「誰ひとり取り残さない」社会の実現～

豊橋技術科学大学 資源循環工学研究室と株式会社豊橋バイオマスソリューションズは、令和5年度「STI for SDGs」アワードにおいて、科学技術振興機構理事長賞を受賞しました。「STI for SDGs」アワードは、科学技術振興機構主催の科学技術・イノベーション（Science, Technology and Innovation：STI）を用いて社会課題を解決する優れた取り組みを表彰する制度です。

【取り組み名】

『小規模廉価型メタン発酵システムによる「誰ひとり取り残さない」社会の実現』

【取り組みの概要】

近年、地球温暖化による気候変動の影響から、再生可能エネルギーへの切り替えや環境へ負荷をかけないことの重要性が注目されています。そのための手段の1つとして、家畜の糞尿などからメタンガスを発生させるバイオガス生産も各地で行われていますが、実際には規模が大きく高額なシステムがほとんどで、中規模以下の畜産農家などが導入するのは難しい状況です。同研究室では、研究成果を活用して、個人経営の中規模農家でも導入できるような、小規模廉価型のメタン発酵システムを開発しました。家畜の糞尿などの資源を有効活用し、臭いや汚物処理についての農家の課題解決と売電による収益向上を実現しました。2016年に愛知県で国内初となる中規模養豚農家への導入を実現した後は、さらに実績を重ね、2021年にはこのシステムを社会に広めていくための大学発ベンチャー企業も創設しました。

この取り組みは、既存の技術を誰もが利用できることを目指しローテク化する「誰ひとり取り残さない技術開発」の視点が評価され、科学技術振興機構理事長賞を受賞しました。

【参考】令和5年度「STI for SDGs」アワード 受賞取り組みの決定について

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1649/pdf/info1649.pdf>



本件に関する連絡先

広報担当：総務課広報係 岡崎・高橋

TEL：0532-44-6506 FAX：0532-44-6509

令和5（2023）年度 定例記者会見日程

第1回	5月17日（水）	10：30～	事務局3階大会議室
中止	6月22日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第2回	8月10日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第3回	9月14日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
中止	10月26日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第4回	12月14日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第5回	1月18日（木）	10：30～	事務局3階大会議室
第6回	2月22日（木）	10：30～	事務局3階大会議室

コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、オンラインにて開催することもあります。

定例以外に臨時で記者会見を行う場合があります。

以 上